

Prognostic impact of count of extratumoral lymphatic permeation in lung adenocarcinoma and its relation to the immune microenvironment

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新見, 昂大 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002808

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2521 号

Prognostic impact of count of extratumoral lymphatic permeation in lung adenocarcinoma and its relation to the immune microenvironment

肺腺癌における腫瘍外リンパ管侵襲の数の予後への影響と免疫微小環境との関係

新見 昂大 (にいみ たかひろ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、先行研究で報告された原発性肺癌における腫瘍外リンパ管侵襲の予後因子としての価値を再検討、発展させ、その数の多寡に着目して予後や腫瘍浸潤免疫細胞のプロファイルとの関連を調べた。先行研究と同様に、肺腺癌切除症例において、腫瘍外リンパ管侵襲は独立した予後不良因子であることを確認した。さらに、腫瘍外リンパ管侵襲を有する肺腺癌完全切除症例において、腫瘍外リンパ管侵襲の数が多群の3年無再発生存割合は14.7%であり、腫瘍外リンパ管侵襲の数が少群の50.0%と比較して、有意に少なく、腫瘍外リンパ管侵襲の数は独立した予後不良因子であることを明らかにした。加えて、腫瘍外リンパ管侵襲を有するpT1の肺腺癌症例において、原発巣の腫瘍間質に浸潤しているCD8陽性Tリンパ球は腫瘍外リンパ管侵襲の多群で有意に少なく、FOXP3陽性Tリンパ球は腫瘍外リンパ管侵襲の多群で有意に多かった。腫瘍間質のCD204陽性マクロファージは腫瘍外リンパ管侵襲の多群で多い傾向が見られたが有意差は認めなかった。本論文は腫瘍外リンパ管侵襲の数と腫瘍免疫微小環境の関連に着目し、肺腺癌切除症例において抑制性の免疫微小環境を持つ腫瘍はリンパ管への浸潤性が高いことを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。